

KENWOOD

FM/AM チューナー

KTF-3010

取扱説明書

お買い上げいただきましてありがとうございました。
ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、説明の通り正しくお使いください。
また、この取扱説明書は大切に保管してください。
本機は日本国内専用モデルですので、国外で使用することはできません。

株式会社 ケンウッド
KENWOOD CORPORATION

本説明書の他に、取扱説明書・別冊『安全上のご注意』が付属されています。
使用者の安全のため、必ず別冊の内容もお読みの上ご使用ください。

メンテナンス

- 前面パネル、ケースなどが汚れたときは、柔らかい布でからぶきします。シンナー、ベンジン、アルコールなどは変色の原因になることがありますので、ご使用にならないでください。
- 接点復活剤は、故障の原因となることがありますので、ご使用にならないでください。とくにオイルを含んだ接点復活剤は、プラスチック部品を変形させることがあります。

ステレオ音のエチケッ

楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。隣り近所への配慮を十分いたしましょう。ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。特に静かな夜間には、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドホンをご利用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。



本機の特徴

アクティブ・レセプション(A.R.)

FM放送のチューニング、またはプリセットした局を呼び出したとき等、受信周波数を変えた場合は、このA.R. (ACTIVE RECEPTION) が動作し、次の機能が電波状況に合った受信条件を選定し、自動的に切り換わり常に最良の状態を受信します。

- ANT A/B —— 2本のアンテナの入力を切り換えます。
- RF ATT —— 放送局が隣接する強電界地域などでは、相互干渉ひずみを減少します。
- IF BAND —— 信号の通過帯域を切り換えて、ひずみ、ノイズを減少します。

ステーション・プリセット(FM. AM)

本機は、お聴きの放送局を簡単な操作(オートとマニュアル)で記憶し、記憶した放送局に局名を付ける機能を搭載しています。お好みの放送局をあらかじめ登録しておくで大変便利です。また、登録している放送局を簡単に呼び出せます。

AMステレオ

本機は、AMステレオ対応です。スポーツ中継やドラマなどを臨場感あふれる音声で楽しむことができます。(雑誌、新聞などのラジオ番組表で確認してください。)

目次

はじめに.....	2	放送局を記憶させる.....	8
本機の特徴.....	2	オートプリセット.....	8
接続のしかた.....	3	記憶させた放送局を受信する.....	9
各部のなまえと働き.....	5	放送局名を表示させる.....	10
放送受信時の便利な機能.....	6	ステーションネームを入力する.....	10
放送を聴く.....	7	故障と思われる症状ですが.....	11
放送を受信する.....	7	定格.....	11
		保証とアフターサービス(必ずお読みください).....	12

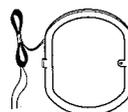
付属品

次の付属品がそろっていることを確認してください。

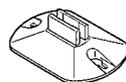
FM室内アンテナ(1本)



AMアンテナ(1本)



AMアンテナスタンド(1個)



オーディオコード(1本)



システムコントロールコード(1本)



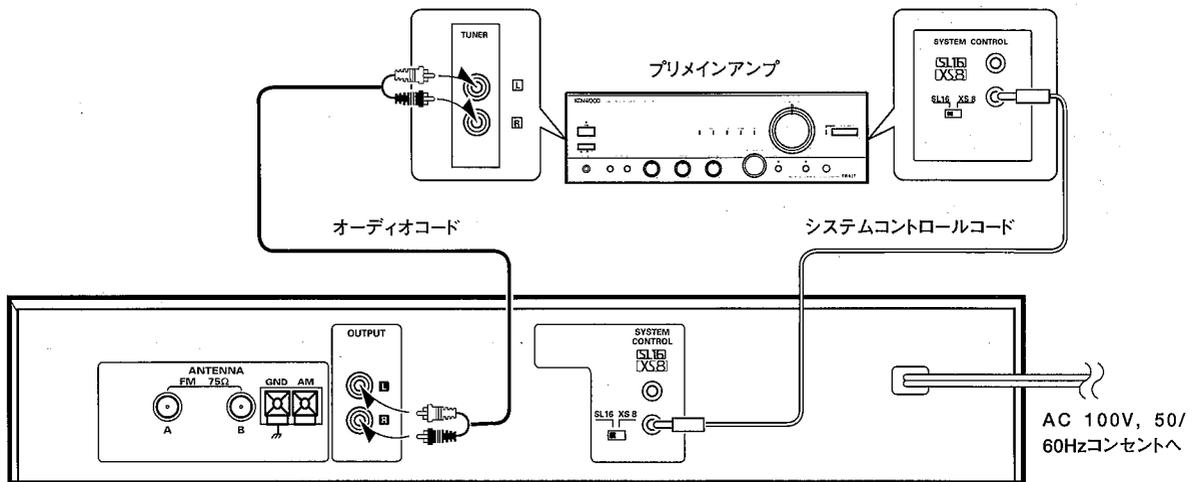
オーディオ機器の接続/システムコントロールコードの接続

注意 システム接続するときは、オーディオコード、システムコントロールコードなどの接続が終わってから、最後に電源コードを差し込んでください。

関連システム機器を接続するときは、関連機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

マイコンの誤動作について

正しく接続したのに操作ができなかったり、ディスプレイが誤った表示をする場合は、「故障と思われる症状ですが...」を参照してマイコンをリセットしてください。



●システムコントロールコードは、二つの端子のどちらに接続しても同じです。

本機をケンウッドのオーディオコンポーネントと組み合わせ、システムコントロールコードを接続すると、便利な機器相互間のシステムコントロール動作が可能になります。

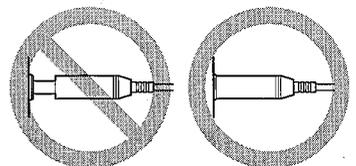
ケンウッドのシステムコントロールは、2種類のモードがあります。下記の端子記号の組み合わせ例に従って接続してください。

- [SL16] のモード : [SL16] のみの組み合わせです。
- [XS 8] のモード : [XR], [XS], [XS8] の組み合わせができます。

本機は [SL16] と [XS8] の両方に対応しています。工場出荷時の状態は [SL16] です。[XS8] モードにするときは、「[SL16] と [XS8] の切り換え方について」に従ってモードを切り換えてください。



1. [SL16] と [XR], [XS], [XS 8] とのシステム動作の組み合わせはできません。もし、このような組み合わせであった場合は、システムコントロールコードは接続しないでください。システムコントロールコードを接続しなくても、通常の性能、操作性が損なわれることはありません。
2. アンプにシステムコントロール端子がない場合は、どのシステムコントロール端子にも、なにも接続しないでください。
3. 当社指定以外の機器との接続は、故障の原因となりますのでおやめください。
4. システムコントロールプラグは根元まで差し込んでください。(右図)



1. すべての接続コードは確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと、音がでなくなったり、システム機器相互間の自動システムが作動しないことがあります。
2. 接続コードを抜き差しする場合は、必ず電源コードを電源コンセントから抜いてください。電源コードを抜かずして接続コードの抜き差しを行うと、誤動作または破損の原因となります。

システムコントロール動作について

リモートコントロール :

アンプに付属するシステムリモコンで、本機を操作することができます。

イーザーオペレーション :

本機のチューニング関連キーの操作をするとアンプの入力切替が自動的に切り換わります。([XR] の表示記号のあるアンプ機器と接続した場合を除く)

[SL16] と [XS8] の切り換え方について

システムコントロールの [XS8] または [SL16] へのモードの切り換えは背面パネルのスイッチで行ないます。

この操作は、全ての接続が完了してから行ってください。

- 切り換える時は、ACコンセントを抜いてから行って下さい。
- この切り換え操作をしても記憶内容は保持されます。



アンテナの接続

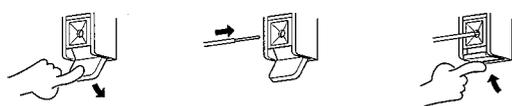
⚠ 注意 屋外アンテナ設置上のご注意

アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。アンテナは送配電線から離れた場所に設置してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。

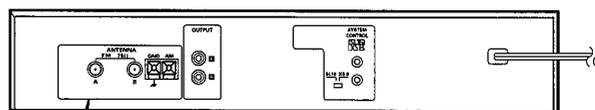
FMアンテナが1本の場合はアンテナ端子のA側に接続して下さい。

アンテナ端子の接続のしかた

- ① レバーを押す
- ② コードを差し込む
- ③ レバーを戻す

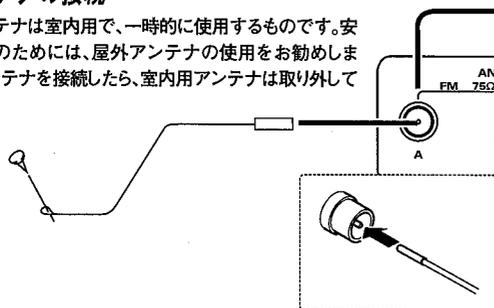


接続が終了してから、電源コードを差し込んでください。



FMアンテナの接続

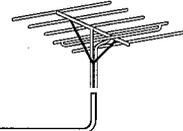
付属のアンテナは室内用で、一時的に使用するものです。安定した受信のためには、屋外アンテナの使用をお勧めします。屋外アンテナを接続したら、室内用アンテナは取り外してください。



FM屋外アンテナの接続

75Ω同軸ケーブルを使って屋内へ引き込み、FM75Ω端子に接続します。

市販のアンテナアダプターを使用します。



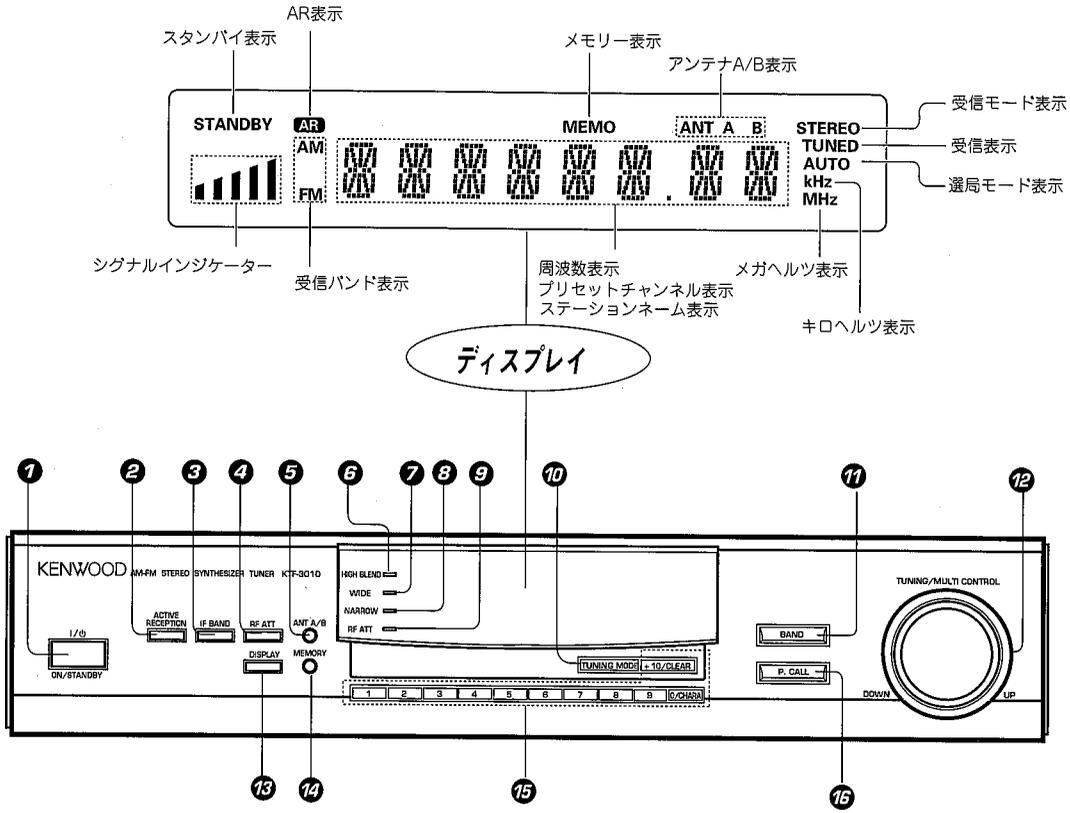
AMアンテナの接続

付属のアンテナは室内用です。本機、その他の電器製品(TV等)、スピーカーコード、電源コードからなるべく離れたところで受信状態の一番よい方向に向けます。

- 屋外アンテナ2本、または屋外アンテナと既設アンテナ(共聴ケーブル放送アンテナなど)を使用の場合、それぞれの設置や受信の条件に合わせてアンテナをAまたはBに切り換える事ができます。



地域によっては壁面アンテナ端子(ケーブル放送受信アンテナ等)に接続するとFM放送を受信することができます。



- | | | |
|---|---|--|
| <p>1 ON/STANDBYキー <small>オン スタンバイ</small> → 7
電源をON/OFF (STANDBY)します。</p> <p>2 ACTIVE RECEPTIONキー <small>アクティブ レセプション</small> → 6
電波状況にあった最適な受信状態を得るために使います。</p> <p>3 IF BANDキー <small>バンド</small> → 6
FM放送の中間周波数 (IF) の選択度をWIDE (広帯域)、NARROW (狭帯域) に切り換えます。</p> <p>4 RF ATTキー <small>アンテナ</small> → 6
電波の強い放送局が隣接しているとき、RF相互変調歪や混変調歪等を少なくするために使います。</p> <p>5 ANT A/Bキー <small>アンテナ</small> → 6
アンテナ2本を使い分けるときに使います。</p> | <p>6 HIGH BLENDインジケータ <small>ハイ ブレンド</small> → 6
ワイド</p> <p>7 WIDEインジケータ <small>ワイド</small> → 6
ナロー</p> <p>8 NARROWインジケータ <small>ナロー</small> → 6
アンテナ</p> <p>9 RF ATTインジケータ <small>アンテナ</small> → 6
チューニング</p> <p>10 TUNING MODEキー <small>モード</small> → 6
選局モードを切り換えます。</p> <p>11 BANDキー <small>バンド</small> → 7
放送バンドを切り換えます。</p> <p>12 TUNING/MULTI CONTROLツマミ <small>チューニング マルチ コントロール</small> → 7 → 8 → 9 → 10
放送局を選局するとき、文字入力のために使います。</p> | <p>13 DISPLAYキー <small>ディスプレイ</small> → 10
ディスプレイに、プリセットしたステーションネームと周波数を交互に切り換え表示します。</p> <p>14 MEMORYキー <small>メモリー</small> → 8 → 10
放送局を登録するとき、ステーションネームを入力するときに使います。</p> <p>15 数字キー → 8 → 9 → 10
放送局を登録するときと、呼び出すとき、ステーションネームの入力のために使います。</p> <p>16 P.CALLキー <small>プリセットコール</small> → 9 → 10
登録された放送局を呼び出すときに使います。</p> |
|---|---|--|

パワー スタンバイ POWERスイッチのSTANDBYについて

本機では電源プラグをコンセントに接続すると、電源OFF時に「STANDBY」表示が点灯します。これは電源OFF時にも、メモリー保護のため、微弱な通電を行なっているのです。

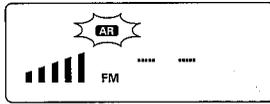
各操作キーは、押す毎に切り換わります。

6

アクティブ レセプション

ACTIVE RECEPTION (A. R.) キー (FM受信時のみ有効)

点滅後点灯



ACTIVE RECEPTION キーを押すと、インジケーターが点滅し、IF BAND、RF ATT、ANT A/B、を自動的に切り換え、最適な受信状態を選択し、この状態でTUNING をUP/DOWN、またはプリセットの呼び出しなど受信周波数を変えると、常に電波状況にあった最適な受信状態が得られます。

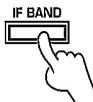
通常はACTIVE RECEPTION はON にしておきます。

IF BAND、RF ATT、ANT A/B を操作するとA.R.はOFFになります。

バンド

IF BAND キー (FM受信時のみ有効)

どちらか一方が点灯



信号の通過帯域を、WIDE (広帯域)、NARROW (狭帯域) に切り換えて歪みやノイズを低減します。

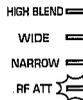
WIDE : 通常は WIDE にしておきます。ひずみの少ない良質の音で受信できます。

NARROW : WIDE 受信時、隣接局の妨害で放送が聞きとりが難しく、NARROW にします。

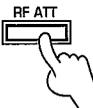
A.R. がON の場合には、自動的に切り換わります。

アッテネーター

RF ATT キー (FM受信時のみ有効)



ON時に点灯



電波の強い放送局が隣接してあるとき、相互変調歪や混変調歪などが発生し易くなります。このような場合、RF ATT スイッチをONすることによって、これらの歪みが低減されます。

OFF のときでも A.R. がON の場合には、自動的に切り換わります。

アンテナ

ANT A/B キー (FM受信時のみ有効)

どちらか一方が点灯



屋外アンテナ2本、または屋外アンテナと既設アンテナ (共聴・ケーブル放送アンテナなど) を使用の場合、それぞれの設置や受信条件に合わせて、AまたはBに切り換えることができます。

A.R. がON の場合には、自動的に切り換わります。

チューニング モード

TUNING MODE キー

このキーを押すと、AUTO/STEREO 時と HIGH BLEND 時にオートステレオ機能、オート選局機能の2つの機能が同時に切り換わります。



オート選曲時に点灯



AUTO/STEREO :ステレオ受信時 "STEREO" 点灯

通常は AUTO/STEREO にしておきます。放送内容 (ステレオ放送、モノラル放送) に合わせて自動的に切り換わります。周波数を自動的に走査して、放送局を受信すると停止します。

HIGH BLEND (FMのみ) :ステレオ受信時 "STEREO" 点灯

ステレオ放送受信時の弱電波時に、中域以上の聴感上のノイズを低減させます。周波数を自動的に走査して、放送局を受信すると停止します。

押すたびに切り換わります。

- | | | |
|----|---|------------------------------------|
| FM | ① | AUTO/STEREO (オート選局: AUTO 点灯) |
| | ② | HIGH BLEND (オート選局: AUTO 点灯, LED点灯) |
| | ③ | MANUAL/MONO (マニュアル選局: AUTO 消灯) |
| AM | ① | AUTO/STEREO (オート選局: AUTO 点灯) |
| | ② | MANUAL/MONO (マニュアル選局: AUTO 消灯) |

MANUAL/MONO :

ステレオ放送受信時、電波が弱く雑音が多いときに使います。放送は強制的にモノラル受信になり、雑音が少なくなります。オート選局出来ない電波の弱い局を受信するときは、マニュアル選局をします。

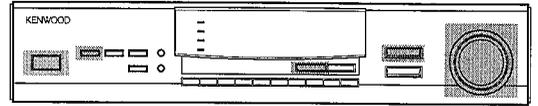
放送を聴く

放送局を最大40局まで記憶させ、ワンタッチで受信することができます。

本機は、AMステレオ対応です。スポーツ中継やドラマなどを臨場感あふれる音声で楽しむことができます。(雑誌、新聞などのラジオ番組表で確認してください。)

準備しましょう

- ON/STANDBYキーをONにします。



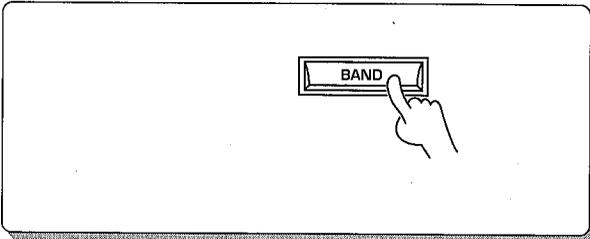
：使用するキー、または、つまみ等を示します。

放送を受信する

1 アンプの入力をTUNERにする

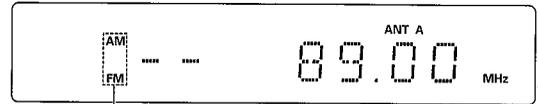
チューナー

2 放送バンドを選ぶ



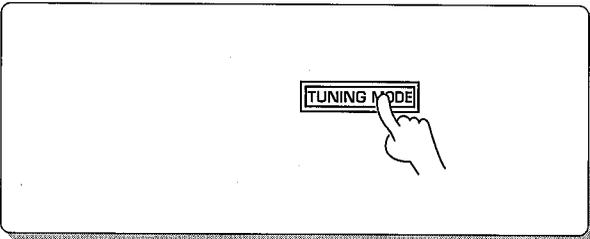
押すたびに切り換わります

- ① FM
- ② AM



"FM"または"AM"の表示

3 選局方法を選ぶ



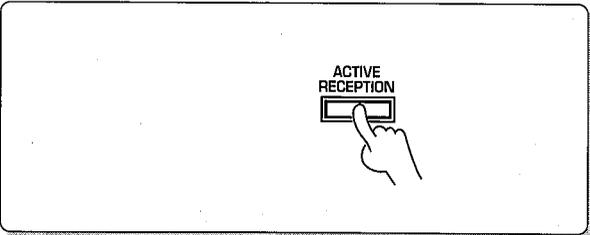
押すたびに切り換わります。(FM時)

- ① AUTO(点灯) : オート選局
- ② HIGH BLEND (点灯) : オート選局 (FM時のみ有効)
- ③ MANUAL(オート消灯) : マニュアル選局

●通常は、**AUTO**(オート選局)にしておきます。

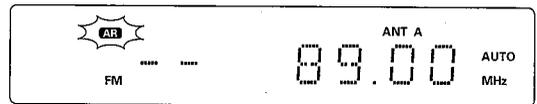
電波が弱く、雑音が多いときは、HIGH BLEND または MANUAL にします。(マニュアル選局のとき、ステレオ放送はモノラル受信になります。)

4 "AR" 表示を点灯させる(FM)



アクティブレセプションキーを押すたびに切り換わります。

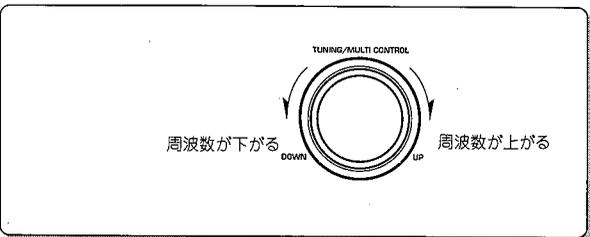
- ① ON (表示点灯): IF BAND, RF ATT, ANT A/B, を自動で切り換わりたいとき
- ② OFF (消灯): 全てを手動で切り換えたいとき



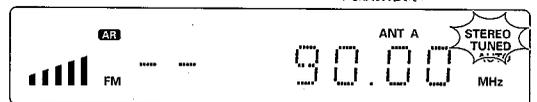
●通常は、**ACTIVE RECEPTION ON**にしておきます。

●FM放送を最適な状態で受信します。

5 放送局を選ぶ



周波数表示



受信すると、"TUNED"が表示

オート選局のとき : 自動的に次の放送局を受信します。

マニュアル選局のとき : 表示を確認しながら受信するまで回し続ける。

放送局を記憶させる

オートプリセットはボタン一つで、最大40局まで記憶します
 マニュアルプリセットは1局ずつ記憶させます

先にオートプリセットしてください。



：使用するキー、または、つまみ等を示します。

オートプリセット (受信状態の良い放送局を自動的にを記憶する)

2秒以上押します。

MEMORY



BANDは自動的にFMに切り換わります。

走査中はメモリーした周波数を順に表示し、数分で終了します。

アンテナは自動的にAに切り換わりA側のみ記憶します。

- オートプリセット時はA.R.(アクティブレセプション)は動作しません。
- マニュアル操作で記憶したものは、書き換えられる事があります。
- FMの周波数の下限から自動的に走査し、続いてAMを走査します。
- プリセット番号は"1"から順に"40"まで付与します。
- アンテナを付け替えた場合は、オートプリセットをやり直して下さい。
- すでに入力されていたステーションネームが、消去される場合があります。

マニュアルプリセット (1局ずつ記憶させる)

1 記憶させたい放送局を受信する

2 入力モードにする

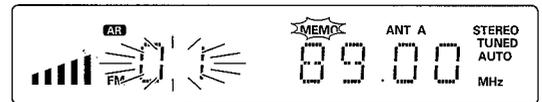
MEMORY



プリセットナンバーが" --- "表示の時、メモリーキーを押すと最小の未登録番号が表示されます。

各々の操作は5秒間の点滅中に行なってください。

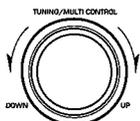
点滅 MEMO点灯(5秒間)



(5秒以上上った場合はもう一度押し直します。)

3 1~40のプリセットナンバーをつける

- ① マルチコントロール、つまみを回してプリセットする番号を決める。



- ② MEMORY キーを押す(入力確定)

MEMORY



♪ 手順①、②のかわりに数字キー(0~9, +10)を使って登録することもできます。

数字キーを押す順序は

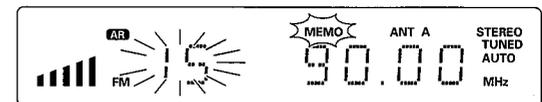
"15"に登録させるとき :

+10	5
-----	---

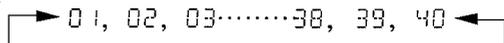
 "20"に登録させるとき :

+10	+10	0
-----	-----	---

点滅 MEMO点灯(5秒間)



回すたびに1...40迄の番号が順に表示されます。



- ①、②、③を繰り返して、それぞれの放送局を記憶させます。
- 同じ番号に重ねて記憶させると、新しい記憶内容に変更されます。
- 一度プリセットした記憶内容は、電源コードを抜いても、約3日間残っています。
- 40を超える数字の入力はできません。
- 10の桁を押し間違えたときは、+10キーを数回押し、希望の表示に戻してから入力してください。
- すでに入力されていたステーションネームは消去されます。

記憶させた放送局を受信する

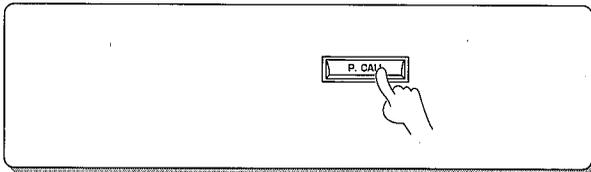
KTF-3010 (J)



■ : 使用するキー、または、つまみ等を示します。

記憶させた放送局を受信する

1 呼び出しモードにする



● P.CALLをもう一度押すと呼び出しモードを解除し、もとの表示に戻ります。

2 プリセットナンバーを選ぶ

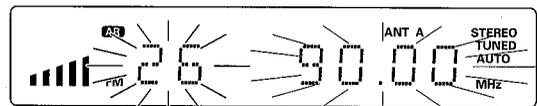
回転を停止するとプリセット局を受信します。

♪ 手順1、2のかわりに、数字キー (0~9, +10) を使って番号を選ぶこともできます。

数字キーを押す順序は

"15" に受信させるとき :	+10	5	
"20" に受信させるとき :	+10	+10	0

5秒間点滅



- 点滅中は次の選局ができません。
- ステーションネームが入力されている場合はステーションネームを表示します。
- 40を超える数字の入力はできません。
- 10の桁を押し間違えたときは、+10キーを数回押し、もとの表示に戻してから入力してください。

メモリーバックアップ

一度プリセットした記憶内容は、電源コードを抜いても約3日間は残っています。

ラストチャンネルメモリー

電源を ON した時、または放送バンドを切り換えたとき、最後に聞いていた放送局を受信します。

放送局名を表示させる

KTF-301D (J)

10

準備しましょう

- ON/STANDBYキーをONにします。

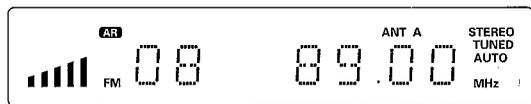


■ : 使用するキー, または, つまみ等を示します。

ステーションネーム (放送局名) を入力する

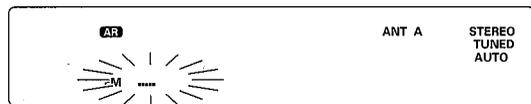
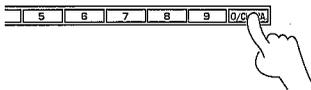
1 プリセットしたチャンネルを呼び出す(選択する)

"記憶させた放送局を受信する"の項の, 手順でプリセットしたチャンネルを呼び出します。



2 入力モードにする

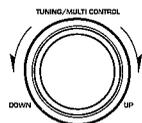
0/CHARA.キーを押す



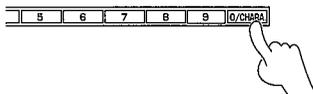
- 10秒以内に次の操作がされないと入力モードは解除します。

3 文字を入力する

- 1 MULTI CONTROLツマミで文字、記号を選ぶ



- 2 0/CHARA. キーを押す(文字確定)...カーソルが次へ移動

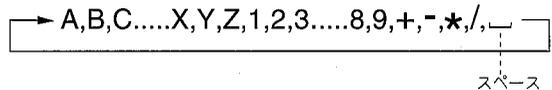


- 3 続けて入力1、2を繰り返す。

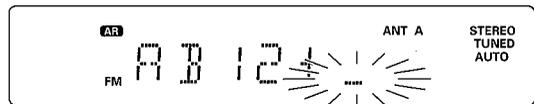
- 4 MEMORY キーを押す。(入力確定)



次の文字、記号が選べます。



選択した文字が点滅します。



8文字まで入力できます。

- 文字を修正するときは ^{メモリー}MEMORY キーを押す前に, ^{ゼロ キャラクター}0/CHARC. キーを何回か押して修正する文字を点滅させ、改めて文字を選択します。
- すべてスペースの場合はステーションネームはメモリーされません。
- 入力した文字をすべて消したい場合は入力モード中に +10/CLEARキーを押します。
- ステーションネーム入力後, ^{ディスプレイ}DISPLAY キーを押すと入力したステーションネームと周波数が、交互に表示されます。(入力してないと"NO TITLE"と表示します。)

マイコンをリセットするには

電源がONのときの接続コードの抜き差しや、あるいは外部からの要因により、マイコンが誤動作（操作できない、ディスプレイの誤表示など）することがあります。この場合、次の手順をお試しください。
マイコンがリセットされ、通常の状態に戻ります。

電源プラグをコンセントから抜き、ON/STANDBYキーを押しながら、差し込み直す。

●リセットにより、各種の記憶内容は消滅し、工場出荷時の状態となります。ご了承ください。

調子が悪いと、故障と考えがちですが、サービスに依頼する前に、一度チェックしてみてください。

症 状	原 因	処 置
音がでない。	●アンプと接続されていない。	●オーディオコードでアンプと接続する。- [3]
放送局が受信できない。	●アンテナを接続していない。 ●放送バンドが合っていない。 ●受信したい放送局の周波数に合っていない。 ●ANT A/Bが正しく選択されていない。 ●アンテナにはいってくる電波が弱い。	●アンテナを接続する。- [4] ●放送バンドを合わせる。- [2] ●受信したい放送局の周波数に合わせる。- [7] ●ANT A/Bを正しく選ぶ。- [6] ●遠距離にあるところではFM専用外部アンテナ(5~6素子)を建てる。
数字キーを押しても受信できない。	●呼び出したチャンネルに放送局をプリセットしていない。 ●長い間、電源プラグを抜いていたため、メモリーが消えてしまった。	●放送局をプリセットする。- [8] ●もう一度プリセットする。- [8]
雑音が入る。	●自動車のイグニッションノイズ。 ●電気器具の影響によるもの。 ●テレビが近くにある。 ●パソコンが近くにある。	●外部アンテナを道路から離して設置する。 ●電気器具の電源を切ってみる。 ●テレビから離す。 ●パソコンから離す。
IF BANDがNARROWのときに音がひずむ。	●放送局の音声レベルが高いため。	●IF BANDをWIDEにする。- [5]

定格

FM チューナー部

受信周波数範囲	76 MHz ~ 90 MHz
アンテナインピーダンス	75Ω 不平衡
実用感度 (モノラル)	1.6 μV (75Ω) / 15.2 dBf (100%変調, S/N30dB)
全高調波ひずみ率	
モノラル	0.08 % (1 kHz, 85.2 dBf 入力時 / WIDE)
ステレオ	0.09 % (1 kHz, 85.2 dBf 入力時 / WIDE)
S/N比	
モノラル	80 dB (85.2 dBf 入力時)
ステレオ	75 dB (85.2 dBf 入力時)
ステレオセパレーション	
1 kHz	52 dB
キャプチャーレシオ	
WIDE	2.0 dB
NARROW	3.0 dB
実効選択度 (±400 kHz)	55 dB (WIDE時)
イメージ妨害比	68 dB
IF妨害比	95 dB
スプリアス妨害比	100 dB
AM抑圧比	68 dB
サブキャリア抑圧比	55 dB
周波数特性	
(30 Hz ~ 15 kHz)	+ 0.5 dB, - 1.5 dB
出力レベル/インピーダンス (FM: 1 kHz, 100 %変調)	
固定出力	0.6 V / 600 Ω

AM チューナー部

受信周波数範囲	531 kHz ~ 1,602 kHz
実用感度	12 μV / (400 μV/m)
S/N比	
モノラル	50 dB
ステレオ	41 dB
全高調波ひずみ率	
モノラル	0.4 %
ステレオ	1.0 %
ステレオセパレーション	30 dB
イメージ妨害比	30 dB
IF妨害比	45 dB
実効選択度	30 dB
出力レベル/インピーダンス (AM: 400 Hz, 30 %変調)	0.18 V / 600 Ω

電源部・その他

電源電圧・電源周波数	AC 100 V, 50 Hz/60 Hz
定格消費電力 (電気用品取締法に基づく表示)	8 W
寸法	幅: 440 mm
	高さ: 94 mm
	奥行: 384 mm
重量	3.3kg



- これらの定格およびデザインは、技術開発に伴い予告なく変更することがあります。
- 極端に寒い(0℃以下の)場所では、十分な性能を発揮できないことがあります。

保証について

保証書

製品には保証書が別途添付されています。所定事項（お買い上げ日、販売店名など）が記載されていること、ならびに記載の内容を必ずご確認のうえ、大切に保管してください。

保証期間

保証期間は、お買い上げの日より1年間です。

保証期間内の場合は...

保証書の記載内容に従い、お買い上げの販売店、またはケンウッドのサービスステーション、営業所が無料修理いたします。修理の際は保証書をご提示ください。

- 電池や、一部の消耗品の交換、ならびに落下、水没など、不適切なご使用による故障の場合は、保証期間内でも有料となります。詳しくは保証書をご覧ください。

修理をご依頼になるときは

「故障と思われる症状ですが...」を参照してお調べいただき、なお異常があるときは、製品の電源をOFFにし、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店またはケンウッドのサービスステーション、営業所にご連絡ください。

(別紙「全国サービス網」をご参照ください。)

持込修理と出張修理

「持込修理」、「出張修理」のどちらが適用されるかは機種によって異なります。保証書の記載をご確認ください。

- 修理のために、セットを販売店やケンウッドのサービスステーション、営業所までお持ちになるときは、お買い上げのセット全部をお持ちください。(スピーカーは除きます)
- セットを修理に持ち込まれる際は、輸送中にキズが付くのを防ぐため、必ず包装してください。
(お買い上げ時の梱包材の再使用が理想的です。)

保証期間が過ぎている場合は...

お買い上げの販売店、またはケンウッドのサービスステーション、営業所にご相談ください。修理すれば使用できる場合には、お客様のご要望により有料にて修理します。

- 補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後、8年間です。
- この期間は、通商産業省の指導によるものです。
- 性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理料金のしくみ(有料修理の場合、これらの費用が必要です。)

- 技術料:故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等の設備費や、一般管理費などが含まれています。
- 部品代:修理に使用した部品の代金です。その他、修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- 出張料:製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

出張修理を依頼されるときは、次のことをお知らせください。

- 製品名.....
- 製造番号(SERIAL No.).....
- お買い上げ年月日.....
- お買い上げの販売店名.....
- 故障の症状(できるだけ具体的に).....
- お客様の連絡先(お名前、住所、電話番号).....

KENWOOD

株式会社 ケンウッド

〒150-8501 東京都渋谷区道玄坂 1-14-6

- 商品、商品の取り扱いに関するお問い合わせは、お客様相談室をご利用ください。
お客様相談室(東京) 電話(03)3477-5335 〒153-0042 東京都目黒区青葉台 3-17-9(青葉台ビル)
(大阪) 電話(06)357-5335 〒534-0024 大阪市都島区東野田町 1-20-5(大阪京橋第一生命ビル)
- アフターサービスについては、お買い上げの販売店か、または、別紙「ケンウッド全国サービス網」をご参照のうえ、最寄りのサービスステーション、各営業所にご相談ください。